

春闘勝利 参院選勝利 千葉県青年婦人労働者総決起集会開催！



80.4.7
NO. 396

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
鉄電二二五八・九(公衆電話)三二七二〇七

三里塚・反谷、大中賃上、四月決戦へのつちみけ

千葉県下における、80春闘四月決戦への幕明けとも言える「80春闘勝利・千葉県労連青年協春闘集会」が、四月五日、千葉市・本町公園で開催され、官公労・民間の青年・婦人労働者約五〇〇名が参加し、いよいよ決戦期に突入する80春闘の最先頭に青年労働者が立ち、県下労働運動の共闘体制を強化することを誓いあげました。

動労千葉青年部は、「三里塚」反谷、80年決戦勝利への大横断幕を先頭に七〇名の白ヘルメット隊列で登場し今一步盛り上りを欠く80春闘の高揚を促すべく全体の注目を集めながら、県下青年協運動の戦術的再編の中軸として、その最先頭で闘いました。以下、その報告をいたしたいと思います。

動労千葉の訴えに大きな共感

全体集會に先立ち十三時半より、同公園に結集した動労千葉青年部は独自集會を開催しました。

「三里塚を闘う労働運動」「反谷を闘う労働運動」「全人民の敵革マルを一掃する労働運動」――80春闘をきりひらく鮮明な基軸を訴える動労千葉青年部の発言に、続々と集まってきた県下の青年労働者は周辺に集まり、注目し耳を傾けていました。

とりわけ過去一年間の「本部」革マル派による様々な攻撃・妨害を見事にはねのけ、県下のみならず全国青年協運動の戦術的発展をきりひらいてきた動労千葉青年部への共感と注目は大きなものを感じられました。中でも、今日、春闘の真只中で、革マル派による私物化を深めている動労「本部」と動労東京地本では、35万人体制合理化の決定的な突破口たる「動力車乗務員の運用合理化」に卒先協力し、血と汗で

勝ちとってきた労働条件を次々と放棄するとういう、鉄労でも顔を赤くするような裏切りを進めているのです。春闘をほんのギリギリまでごまかして目黒選挙を革マル派の勢力拡大のためのみ政治利用し、資金を私物化的に浪費するなど目にあまるテトラメブリをばくろしています。昨年12・1、明治公園での総評青年協集會で、革マル派によって「生タマゴ」をぶつけられ、怒りを感じている千葉県労連青年協の多くの仲間が熱心に耳をかたむけていました。

青年部は春闘勝利の先頭に立つぞ

集會は全電通の永井青年部長の司會で開始され、主催者を代表して土井県青年協副議長のあいさつ、県春闘女闘より清水事務局長、社会党を代表して赤桐参議院議員があいさつを行いました。来賓として「いのちと暮らしを守る婦人のつどい」会長の土屋さんより「自民党政府は、女性労働者を家庭に追い込む反動政策を強め、育児をしていければよいという差別攻撃を進めている」と労基法改悪を弾劾する発言、在日朝鮮青年同盟の代表より「南朝鮮では今、労働者人民の民主化を求める闘いが盛り上っている。南北統一を実現するため、みなさんの支援、連帯を願う」と今日の韓国情勢と訴えをうけました。吉野青年協事務局長よりの基調報告、民間・婦人・公務員・公労協代表からの決意表明等をうけ、団結ガンバローののち千葉中央公園までのデモ行進を勝ちとりました。

すさまじい生活苦の前に、我々労働者の怒りは「8%自粛」方針をのりこえて四月春闘決戦を大きくつき動かすバネになっていきます。「三里塚」反谷春闘の旗のもと、四月決戦へとぶちぬぎ、大中賃上げ獲得のため職場で奮闘していきましょう。